



## ～ 参観日道徳科の授業～

資料 「心と心のあく手」

### ねらい

ぼくがおばあさんにとっての行動について考えることを通して、「ほんとうの親切」とはどんなことなのかということに気づき、相手のことをほんとうに思いやり、進んで親切にしようとする態度を育てる。

### あらすじ

主人公「ぼく」は、下校途中、荷物を持ったおばあさんに出会う。「荷物、持ちます」と声をかけるが、断られて残念に思った。その後、母親の話から、おばあさんは少し前まで病気だったことや、病気が治り歩く練習をしていて、少し歩けるようになってきたことを知る。

数日後、同じおばあさんに会った「ぼく」は、声をかけようかどうしようか迷う、今度は声をかけずに見守り後ろをついて行く。家に着き、振り返ったおばあさんの笑顔を見て「ぼく」の心はぱっと明るくなり「心と心のあく手」をしたような気がした。

### 子ども達のふりかえり

相手の人のために何ができるか考えられる人になりたいです。

相手のことを心から心配することを親切ということだと思いました。

誰かのために手伝えることは、必ず相手が望んでいることとは限らないことを学びました。



こまっている人をすぐに助けることも親切だけど、声をかけて助けることが相手のためになる一番の親切だと思いました。

親切とは、何でもしてあげるのではなく、相手はどうしてほしいのかということを考えて行動することだと分かりまし

子ども達は、もし自分だったから「声をかけるか」「声をかけないか」を考える活動を通して、主人公のように声をかけないことも相手を思った親切だということに気づくことができました。

日々の道徳科の授業で考えたことや友達との対話から新たに発見したことなどを実生活に生かし、道徳性を育めるよう見守ったり声をかけたりしていきます。また、ご家庭での様子や成長を感じられたエピソードも教えていただければと思います。よろしくお願いいたします。